

福祉共同作業所、シルバー人材センター など入れず、保健センターを移設



小金井で元気に！ 小金井を元気に！

五十嵐京子 通信 第46号

小金井市議会議員

2017年8月発行 五十嵐京子を支援する会

●まったく新しい施設を検討

3月の市議選で新たにスタートした議会に対し、西岡市長は6月議会2日目に市議会全員協議会を開催し、新福祉社会館に関する最近の動きを報告しました。昨年10月に、市長選挙の際の公約であった6施設複合化計画を白紙撤回し、さらに12月には福祉会館に子育て機能を入れるとの発言をしていた西岡市長の構想がより具体的になりました。かつて稲葉前市長時代には旧福祉社会館の緊急避難的な建て替えを考えていましたが、西岡市長の構想は旧福祉社会館の建て替えではなく、まったく新しいものであり、長い間障害者の働く場として旧福祉会館にあった福祉共同作業所等も入れない予定であることも明らかになりました。

一方で公募市民を含めた新福祉社会館建設基本計画市民検討委員会がスタートし、7月7日には第一回委員会が開催され、その場で建設場所を庁舎用地である蛇の目跡地が適当との結論を出し市長へ報告しました。新福祉社会館の建設場所として、本町暫定庁

舎用地と蛇の目跡地それぞれのメリットデメリットを比較検討することなく、場所についての結論が出されました。今年の12月までには基本計画を出す予定となっていますが、議会からは検討時間が短すぎるのでは、との意見が複数出されました。

●もはや福祉社会館ではないー

西岡市長が提案している新福祉社会館には、旧福祉会館にあった福祉共同作業所や悠々クラブ連合会事務局はなく、稲葉前市長時代に構想されたシルバー人材センター事務局や精神障害者地域生活支援センターもありません。代わりに貫井北町にある保健センターが入り大きく面積を占めるようになっており、子ども家庭支援センターもこちらに移るようになっていきます。また、旧福祉会館で多くの市民が利用していた集会室・学習室・視聴覚室は多目的室として確保されることになっています。旧福祉会館では福祉会館としての機能と公民館としての機能が入ってお互いの連携を図るような仕組みでしたが、これからはむしろ健康を考えた保健センター機能と多くの市民が利用可能な集会施設機能がその特徴となると考えられます。障害者や高齢者などいわゆる社会的弱者

を対象にした福祉会館ではなく、一般的な保健対策、集会所機能に子育て機能を付加するようなものになるのではないのでしょうか。社会福祉協議会は入る予定で、例えば福祉総合相談窓口や市民活動センターや災害ボランティアセンター機能も入る予定にはなっていますが、これら窓口やセンターはむしろ庁舎の中にあっても良い機能であり、福祉を代表するものではありません。

旧福祉会館、稲葉前市長案、西岡市長案の特徴的な部分の比較

旧福祉会館機能	稲葉前市長時代の構想	西岡市長の新福祉社会館構想	想定面積
各種健康相談・指導事業、介護予防事業など	多目的室（2室）	保健センター	526㎡
集会室・学習室・視聴覚室など	多目的室（2室）、和室	多目的室	710㎡
社会福祉協議会	社会福祉協議会	社会福祉協議会	32㎡
悠々クラブ連合会事務局	悠々クラブ連合会事務局		
福祉共同作業所	福祉共同作業所		
	シルバー人材センター		
	精神障害者地域生活支援センター		
		子ども家庭支援センター	253㎡
		ファミリー・サポートセンター	14㎡